

活気と潤いがあり、みんなが「育つ」学校を目指して

自分の一歩 みんなの一歩

校長室だより II

朝霞市立朝霞第一小学校

令和3年4月23日

N o 6 (合同N o 2)

校長 野口 邦彦

「活気と潤いがあり、みんなが“育つ”学校」をつくるために

キーワードは『つながる』 そのためには

今年度も「活気と潤いがあり、みんなが“育つ”学校」を目指していきたいと思います。そのためのキーワードとして、今年度は「つながる」ということをあげたいと思います。何がつながるかと言えば、児童と児童、児童と教師、教師と保護者、学校と地域など様々です。集団活動を行う場で、個々がバラバラでは集団としての力を発揮することはできません。「チーム」という言葉があるように、個々がつながりベクトルが揃う時、集団はすごい力を発揮します。学校も集団活動をする場、だからこそ一小に関わる様々な人がつながることは、とても重要です。

では、つながるためには何が必要か、私は、そのスタートは「あいさつ」と「ありがとう」だと思います。

まずは「あいさつ」。「あいさつ」はコミュニケーションの第一歩です。互いがすれ違う一瞬の「おはよう」「こんにちは」のたった一言が人と人をつないでいきます。よく小学生はあいさつが少ないと言われます。でも、そんなことはないと思います。私が「こんにちは」と言えば、全員の子どもが「こんにちは」と返してくれます。子どもの「自分からのあいさつ」を引き出すためにも、まずは、我々教師から子ども達にあいさつしていきましょう。つながるための「あいさつ」の大切さ、これは保護者に対しても、来客者に対しても一緒です。

次に「ありがとう」です。学校に限らず集団で過ごす場は、「誰かに助けてもらう」という場面が多くあります。そんな時に「ありがとう」の一言、これが良い関係を築いていくことにつながっていきます。「ありがとう」は魔法の言葉、「ありがとう」があふれる学校は、「潤いのある学校」につながっていきます。私も忙しさのあまり「ありがとう」をついつい忘れてしまうのですが、今年度は意識して「ありがとう」を使っていきたいと思えます。

一小が「チーム」としてつながっていくためにも、「あいさつ」と「ありがとう」大切にしていきたいと思います。

人の心はパラシュートの
ようなもの、開かなければ
使えない。